

◆2026年度 中学入試 第1回【国語】 正答率・問いのねらい・講評

大問	問	正答率		問いの内容・ねらい	講評
		受験者	合格者		
一	①	86.6%	91.3%	【漢字の書き取り】 小学校6年生までの学習範囲で、基本的な漢字の知識を問う。	全体的に正答率が高く、しっかりと準備してきてもらっている印象を受けた。 ④「幸福」は、「幸」の字形が崩れているもの、 ⑤「開放」は、「解放」と誤答、「放」が続け字になってしまっているものが見受けられた。
	②	88.1%	92.6%		
	③	88.5%	89.8%		
	④	69.2%	72.8%		
	⑤	80.2%	83.0%		
	⑥	93.4%	95.7%		
	⑦	89.9%	93.2%		
	⑧	94.1%	94.7%		
二	問一X	61.2%	61.9%	【説明的文章】 現代のメディア、とりわけSNSが急速に私たちの日常に浸透したことで、人と人との「関係性」も大きく、そして急速に変化しつつある。常に誰かとつながることができるようになった一方で、だからこそ「誰ともつながれない」と感じる苦しさが生まれてしまう——こうした指摘は、受験生に限らず、今を生きるすべての人に深く響くものがある。 (問二(2)) 「個人化」とは、旧来の人との繋がりが方からどのようなものへと変化したかを対比構造で捉えさせる設問。	(問4) 現代の人間関係は、相手との「感覚的な距離」によって形成されるがゆえに、きわめて「曖昧」で不安定である。これは(問2)の内容とも緩やかに接続しており、旧来の 【家族】 や 【地域】 など、生まれながらに所属することで自動的に形成されていた人間関係——いわば“しがらみ”としての関係性——が弱まったことが背景にある。その結果、個人が主体的に当事者意識を持ち、能動的に集団へ参加しようとする意志を持たなければ、本質的に社会から孤立した「個」となる危険性が生じている、ということを気付かせたい。
	問一Y	87.7%	93.2%		
	問二(1)	60.6%	72.4%		
	問二(2)	21.4%	23.5%		
	問三	65.1%	74.3%		
	問四	10.0%	12.7%		
	問五	52.0%	60.4%		
	問六	89.0%	94.4%		
	問七-1	83.1%	90.1%		
	問七-2	95.2%	96.6%		
三	問一	89.4%	94.4%	【文学的文章】 意図せずして学校で浮いた存在となってしまった少年が、母と離れて田舎の祖父のところで過ごす一夏の経験を描いた文章。主人公が抱えている負い目や悩みを捉えながら、周りの人間によって主人公の心情が様々な変化していく流れを読み取ることが重要であった。 (問8) 主人公「真潮」の心情を理解する教科横断的な問題で思考力を試す。	(問4) 会うことができなかった希沙と翌日対面したときの真潮の心情に関する問い。真潮の視点であることと、直後の段落をしっかりと把握することが重要。 (問8) 思考力問題。イは「素直に謝る気持ちになれない」と思っている行動なので「反動形成」とは言えない。これから文学的文章を読む上で、心情の変化に心の働きがあることを理解してもらえると、作品理解により深みが出ると思われる。
	問二	74.0%	78.9%		
	問三	81.4%	87.6%		
	問四	47.0%	54.8%		
	問五	83.3%	90.1%		
	問六	89.0%	92.9%		
	問七	94.3%	96.9%		
	問八ア	78.0%	81.4%		
	問八イ	49.5%	54.2%		
	問八ウ	83.8%	86.4%		
問八エ	66.1%	71.5%			